

## 編集後記・Editorials

魚類学雑誌  
54(1):104

魚類学雑誌54巻1号をお届けします。本論文7本と短報1本の構成で、読みごたえのある号になりました。このところ活発な投稿状況がつづき、編集委員一同よろこんでおります。これは会員のみなさまの精力的な研究活動の反映に他なりません。今後も充実した本誌をお届けできるよう、よろしくご協力お願いいたします。

原著論文に加え、図書紹介や会員通信の記事もどしどしお寄せください。水族館や研究室のアピールが無料でできる場はそんなにはありません。研究室の紹介は大学院生のリクルートなどにも利用価値が高いのではないのでしょうか。基本的には「なんでもあり」の会員通信ですので、みなさまの意表をつくご利

用を期待しています。

世間では「団塊の世代」の大量退職がしきりにとりあげられています。ほんやりとした頭で他人事のように眺めていたのですが、魚の世間もこの問題とは無縁ではないようです。海水魚でいえば、ここ数年で松原喜代松先生の初期の孫弟子にあたる方々が定年を迎えます。魚類学会における「団塊パワー」についてはみなさまのご判断におまかせするにせよ、ここでのバトンの受け渡しが今後の魚類研究を展望する上での試金石になるのかも知れません。私のような「三無主義」が「団塊」に今後長きにわたり圧倒される事態はなんとしても避けたいところですが、どうなりますやら。この世代はなかなかもって手ごわいようですので、余計なことを記したようです。これにて退散。

(佐々木邦夫)